

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-130569

(43)公開日 平成8年(1996)5月21日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 1/00		N		
H 0 4 B 7/26			H 0 4 B 7/ 26	K

審査請求 未請求 請求項の数2 F D (全 7 頁)

(21)出願番号 特願平6-287170

(22)出願日 平成6年(1994)10月28日

(71)出願人 000001122

国際電気株式会社

東京都中野区東中野三丁目14番20号

(72)発明者 耕作 尚子

東京都中野区東中野三丁目14番20号 国際  
電気株式会社内

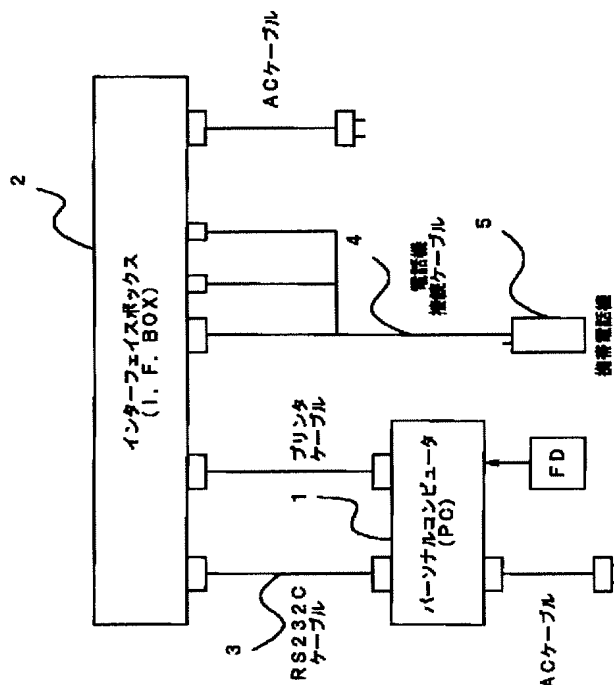
(74)代理人 弁理士 阪本 清孝 (外1名)

## (54)【発明の名称】 情報転送装置

## (57)【要約】

【目的】 I D情報と短縮ダイヤル情報の両方を簡単に転送できる情報転送装置を提供する。

【構成】 携帯電話機を電話機接続ケーブル4で接続するインターフェイスボックス2と、そのインターフェイスボックス2にRS232Cケーブル3で接続する制御部1とから成る情報転送装置であって、制御部1が、電話機接続ケーブル4に接続した故障機からI D情報と操作情報のどちらか一方、又は両方を読み込んで蓄積し、電話機接続ケーブル4の接続を代替機に切り替えられたことを確認したら、蓄積した情報を代替機に書き込む情報転送装置である。



(2)

特開平8-130569

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 操作情報を第1の記憶部に記憶する携帯電話機が接続されるインターフェイス部と、前記インターフェイス部に接続する制御部とを有する情報転送装置であって、前記制御部が、前記インターフェイス部を介して接続する携帯電話機の第1の記憶部から操作情報を読み込んで蓄積し、前記インターフェイス部を介して接続する他の携帯電話機の第1の記憶部に前記操作情報を書き込む転送処理を行う制御部であることを特徴とする情報転送装置。

【請求項2】 操作情報を第1の記憶部に記憶し、ID情報を第2の記憶部に記憶する携帯電話機が接続されるインターフェイス部と、前記インターフェイス部に接続する制御部とを有する情報転送装置であって、前記制御部が、前記インターフェイス部を介して接続する携帯電話機の第1の記憶部から操作情報、第2の記憶部からID情報の双方又はいずれかを読み込んで蓄積し、前記インターフェイス部を介して接続する他の携帯電話機の第1の記憶部に前記操作情報、第2の記憶部にID情報の双方又はいずれかを書き込む転送処理を行う制御部であることを特徴とする情報転送装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、携帯電話機の保守等に用いられる情報転送装置に係り、特に故障機から代替機へID情報及び短縮ダイヤル情報を簡単に転送することができる情報転送装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】まず、従来の情報転送装置は、携帯電話機用試験装置等を用いて、故障した携帯電話機（単に故障機と呼ぶ）のROM部分から電話番号等の携帯電話機固有のID情報を読み込んで蓄積し、蓄積したID情報を代替の携帯電話機（単に代替機と呼ぶ）のROM部分に転送するようになっていた。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の情報転送装置では、転送できるのがID情報だけで、故障機の利用者が登録した短縮ダイヤル等の操作情報は転送できず、代替機における再登録作業が必要であり、不便であるという問題点があった。

【0004】本発明は上記実情に鑑みて為されたもので、ID情報と短縮ダイヤル情報の両方を簡単に転送できる情報転送装置を提供することを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】上記従来例の問題点を解決するための請求項1記載の発明は、操作情報を第1の記憶部に記憶する携帯電話機が接続されるインターフェイス部と、前記インターフェイス部に接続する制御部とを有する情報転送装置であって、前記制御部が、前記インターフェイス部を介して接続する携帯電話機の第1の

2

記憶部から操作情報を読み込んで蓄積し、前記インターフェイス部を介して接続する他の携帯電話機の第1の記憶部に前記操作情報を書き込む転送処理を行う制御部であることを特徴としている。

【0006】上記従来例の問題点を解決するための請求項2記載の発明は、操作情報を第1の記憶部に記憶し、ID情報を第2の記憶部に記憶する携帯電話機が接続されるインターフェイス部と、前記インターフェイス部に接続する制御部とを有する情報転送装置であって、前記制御部が、前記インターフェイス部を介して接続する携帯電話機の第1の記憶部から操作情報、第2の記憶部からID情報の双方又はいずれかを読み込んで蓄積し、前記インターフェイス部を介して接続する他の携帯電話機の第1の記憶部に前記操作情報、第2の記憶部にID情報の双方又はいずれかを書き込む転送処理を行う制御部であることを特徴としている。

## 【0007】

【作用】請求項1記載の発明によれば、制御部がインターフェイス部を介して接続された故障した携帯電話機の第1の記憶部から操作情報を読み込んで蓄積し、蓄積した操作情報をインターフェイス部を介して接続された代替の携帯電話機の第1の記憶部に書き込む情報転送装置としているので、故障機に対して代替機をサービスする場合の代替機における操作情報の再登録作業を省くことができ、代替機サービス作業の効率向上を図ることができる。

【0008】請求項2記載の発明によれば、制御部が、故障した携帯電話機の第1の記憶部からの操作情報と第2の記憶部からのID情報の双方又はいずれかを代替の携帯電話機に転送する情報転送装置としているので、故障機に対して代替機をサービスする場合の代替機における操作情報とID情報の再登録作業を省くことができ、代替機サービス作業の効率向上を図ることができる。

## 【0009】

【実施例】本発明の一実施例について図面を参照しながら説明する。本発明の一実施例に係る情報転送装置は、故障した携帯電話機のROMに格納されているID情報と、同機のRAMに格納されている短縮ダイヤル登録等の操作情報を読み込み、代替の携帯電話機のROM及びRAMにそれぞれID情報と操作情報とを転送して書き込むもので、操作情報も転送できるため代替機における短縮ダイヤル等の操作情報登録作業を省くことができるものである。

【0010】本発明の一実施例に係る情報転送装置の構成について図1を使って説明する。図1は、本発明の一実施例に係る情報転送装置の構成図である。本実施例の情報転送装置は、パーソナルコンピュータ（PC）の制御部1と、インターフェイスボックス2と、RS232Cケーブル3と、電話機接続ケーブル4と、携帯電話機5とから構成されている。尚、本実施例のインターフェ

(3)

## 3

イスボックス2とRS232Cケーブル3と電話機接続ケーブル4とを合わせた部分が請求項1のインターフェイス部に相当する。

【0011】そして、制御部1にRS232Cケーブル3を介してインターフェイスボックス2を接続し、インターフェイスボックス2に電話機接続ケーブル4を介して携帯電話機5を接続するようになっている。

【0012】そして、情報転送を行う際は、情報を読み出す側の故障した携帯電話機（単に故障機と呼ぶ）と、情報を書き込む側の代替の携帯電話機（単に代替機と呼ぶ）とを切り替えて、電話機接続ケーブル4に接続するようになっている。

【0013】次に、各部の働きを具体的に説明する。まず、携帯電話機5は、使用者に手渡される際に電話番号等の携帯電話機固有の情報（ID情報）が専用装置を使ってROM（Read Only Memory）に格納され、更に使用者によって登録された短縮ダイヤル等の情報（操作情報）がRAM（Random Access Memory）に格納されるものである。ここで、RAMが請求項1及び請求項2の第1の記憶部に相当し、ROMが請求項2の第2の記憶部に相当するものである。尚、本実施例では、携帯電話機としてT202又はCMH555を例に説明し、操作情報として主に短縮ダイヤル情報を転送する例で説明する。

【0014】次に、制御部1は、情報転送の制御を行うもので、具体的には、故障機のROMに登録されているID情報と、故障機のRAMに登録されている短縮ダイヤル情報等の操作情報とを読み込んで蓄積し、蓄積したID情報を代替機のROMに、また蓄積した操作情報を代替機のRAMに書き込むようになっている。尚、本実施例の制御部1は、汎用的なパーソナルコンピュータ（PC）を用いて、情報転送を行う情報転送プログラムを実行するもので、情報転送プログラムは、例えばフロッピーディスク（FD）に保存してあるものをローディングして起動するものである。

【0015】インターフェイスボックス2は、制御部1を接続するRS232Cケーブル3と携帯電話機5（故障機及び代替機）を接続する電話機接続ケーブル4との間のインターフェイスを行うもので、本実施例では、専用のインターフェイスボックス（I. F. BOX）を使用している。

【0016】RS232Cケーブル3は、制御部1とインターフェイスボックス2とを接続する汎用的なシリアルインターフェイスのケーブルである。

【0017】電話機接続ケーブル4は、インターフェイスボックス2と携帯電話機5（故障機及び代替機）とを接続する専用インターフェイスのケーブルである。

【0018】次に、本実施例の制御部1における情報転送の制御方法について、図2、図4を使ってパーソナルコンピュータで実行される転送プログラムの動作で説明

特開平8-130569

## 4

する。図2、図4は、本実施例のパーソナルコンピュータで実行される転送プログラムの処理動作を示すフローチャート図である。尚、図2、図4では携帯電話機としてT202又はCMH555について情報転送を行うこととし、操作情報として短縮ダイヤル情報を転送する場合で説明する。

【0019】本実施例の制御部1における転送プログラムは、電話機接続ケーブル4に故障機が接続された状態で起動され、その処理動作は、図2に示すように、まず電話機接続ケーブル4に接続した故障機の種類を判断し（100）、故障機の種類が「T202」の場合は、T202転送プログラムメニュー画面を表示する（101）。尚、図3に本実施例の転送プログラムにおけるT202転送プログラムメニュー画面の表示例を示した。一方、故障機の種類が「CMH555」の場合は、CMH555転送プログラムメニュー画面を表示する（102）。

【0020】そして、処理101又は処理102終了後は、メニュー画面に従ってメニューを選択し（110）、選択メニューが「1」（短縮ダイヤル、ID情報の両方）の場合は、短縮、ID転送処理を行い（111）、選択メニューが「2」（ID情報のみ）の場合は、ID転送処理を行い（112）、選択メニューが「3」（短縮ダイヤルのみ）の場合は、短縮転送処理を行う（113）。

【0021】そして、処理111又は処理112又は処理113終了後は、他の携帯電話機5の転送があるか判断し（114）、他の携帯電話機5の転送がある場合は、処理100に戻り、他の携帯電話機5の転送がない場合は、転送プログラムの処理を終了する。

【0022】また、処理100において故障機の種類が「T202」又は「CMH555」以外の場合は、転送不可を表示し（120）、[F10]が押下されたか判断し（121）、[F10]が押下されたなら転送プログラムの処理を終了し、[F10]以外が押下されたなら処理100に戻る。

【0023】ここで、短縮、ID転送処理（処理111）は、図4に示すように、故障機のRAMから短縮ダイヤル情報を読み出し（201）、故障機のROMからID情報を読み出し（202）、読み出し完了を表示し（203）、電話機接続ケーブル4への接続を代替機に交換したかを確認し（204）、交換してない場合は、処理204を繰り返し、代替機に交換した場合は、代替機のRAMに短縮ダイヤル情報を書き込み（205）、代替機のROMにID情報を書き込み（206）、転送終了の表示を行う（207）。

【0024】また、ID転送処理（処理112）は、図3に示した短縮、ID転送処理の中の、処理202～処理204、処理206、処理207のみを行う処理であり、短縮転送処理（処理113）は、図3に示した短

(4)

特開平8-130569

5

縮、ID転送処理の中の、処理201、処理203～処理205、処理207のみを行う処理である。

【0025】尚、本実施例では故障機の情報を代替機に転送する例で説明したが、例えば選択メニューとして「3」（短縮ダイヤルのみ）を選択すれば、1つの携帯電話機5に登録した短縮ダイヤル等の操作情報を、他の携帯電話機5にコピーするような場合にも使用することができるものである。

【0026】本実施例の情報転送装置によれば、制御部1が電話機接続ケーブル4に接続した故障機からID情報と操作情報を読み込んで蓄積し、電話機接続ケーブル4の接続を代替機に切り替えられたことを確認したら、蓄積した情報を代替機に書き込むものであるので、使用者が故障機に登録した短縮ダイヤル等の操作情報を代替機で再登録する必要がなく、故障機と代替機との交換作業を簡単に行うことができる効果がある。

【0027】また、本実施例の情報転送装置によれば、情報転送の際にID情報のみを転送するか、操作情報のみを転送するか、その両方を転送するかを選択することができるので、複数の携帯電話機へ同一の操作情報を登録するときにも使用することができる効果がある。

【0028】

【発明の効果】請求項1記載の発明によれば、制御部がインターフェイス部を介して接続された故障した携帯電話機の第1の記憶部から操作情報を読み込んで蓄積し、蓄積した操作情報をインターフェイス部を介して接続された代替の携帯電話機の第1の記憶部に書き込む情報転送装置としているので、故障機に対して代替機をサービ

6

スする場合の代替機における操作情報の再登録作業を省くことができ、代替機サービス作業の効率向上を図ることができる効果がある。

【0029】請求項2記載の発明によれば、制御部が、故障した携帯電話機の第1の記憶部からの操作情報と第2の記憶部からのID情報の双方又はいずれかを代替の携帯電話機に転送する情報転送装置としているので、故障機に対して代替機をサービスする場合の代替機における操作情報とID情報の再登録作業を省くことができ、代替機サービス作業の効率向上を図ることができる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係る情報転送システムの構成図である。

【図2】本実施例のパーソナルコンピュータで実行される転送プログラムの処理動作を示すフローチャート図である。

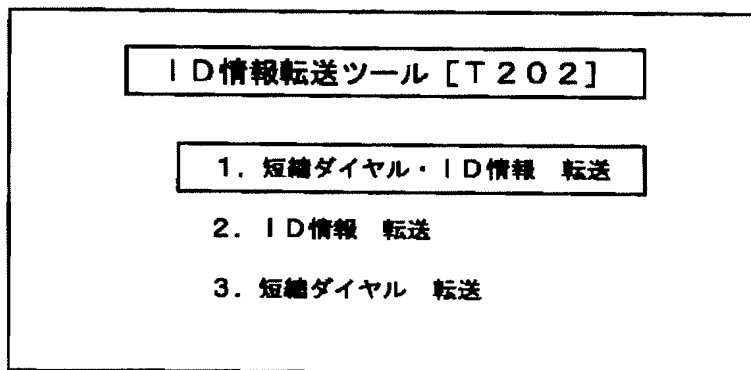
【図3】本実施例の転送プログラムにおけるT202転送プログラムメニュー画面の表示例を示す説明図である。

【図4】本実施例のパーソナルコンピュータで実行される転送プログラムの処理動作を示すフローチャート図である。

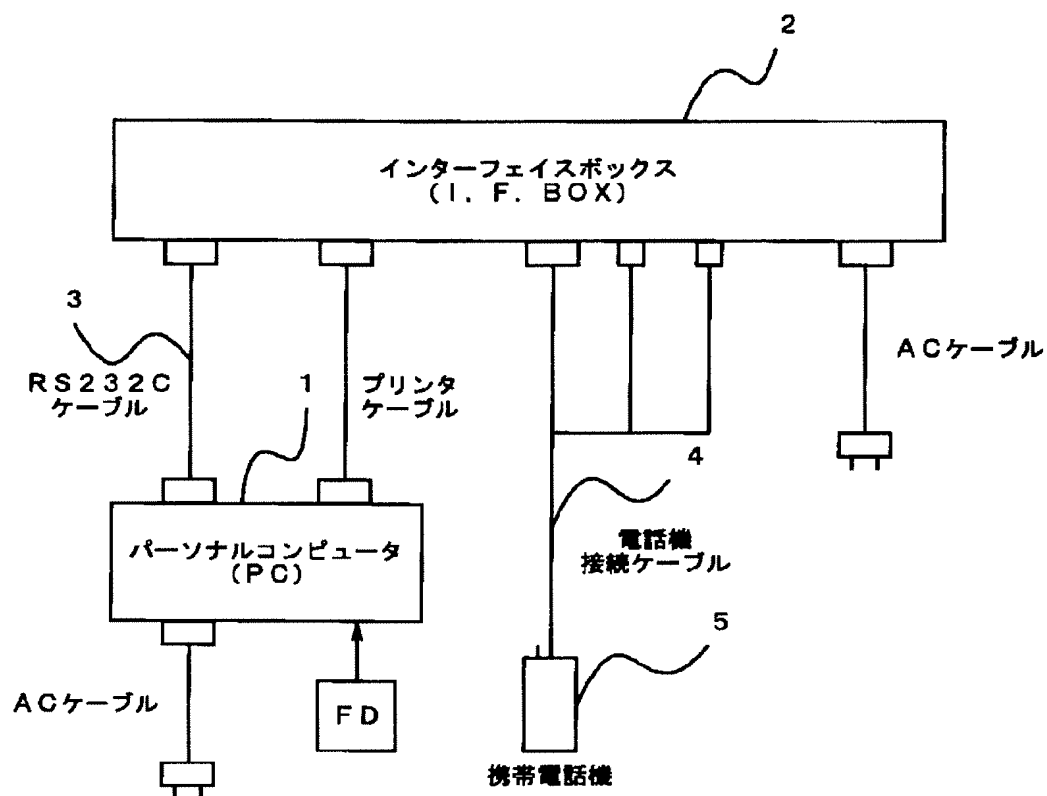
【符号の説明】

1…制御部、 2…インターフェイスボックス、 3…RS232Cケーブル、 4…電話機接続ケーブル、 5…携帯電話機

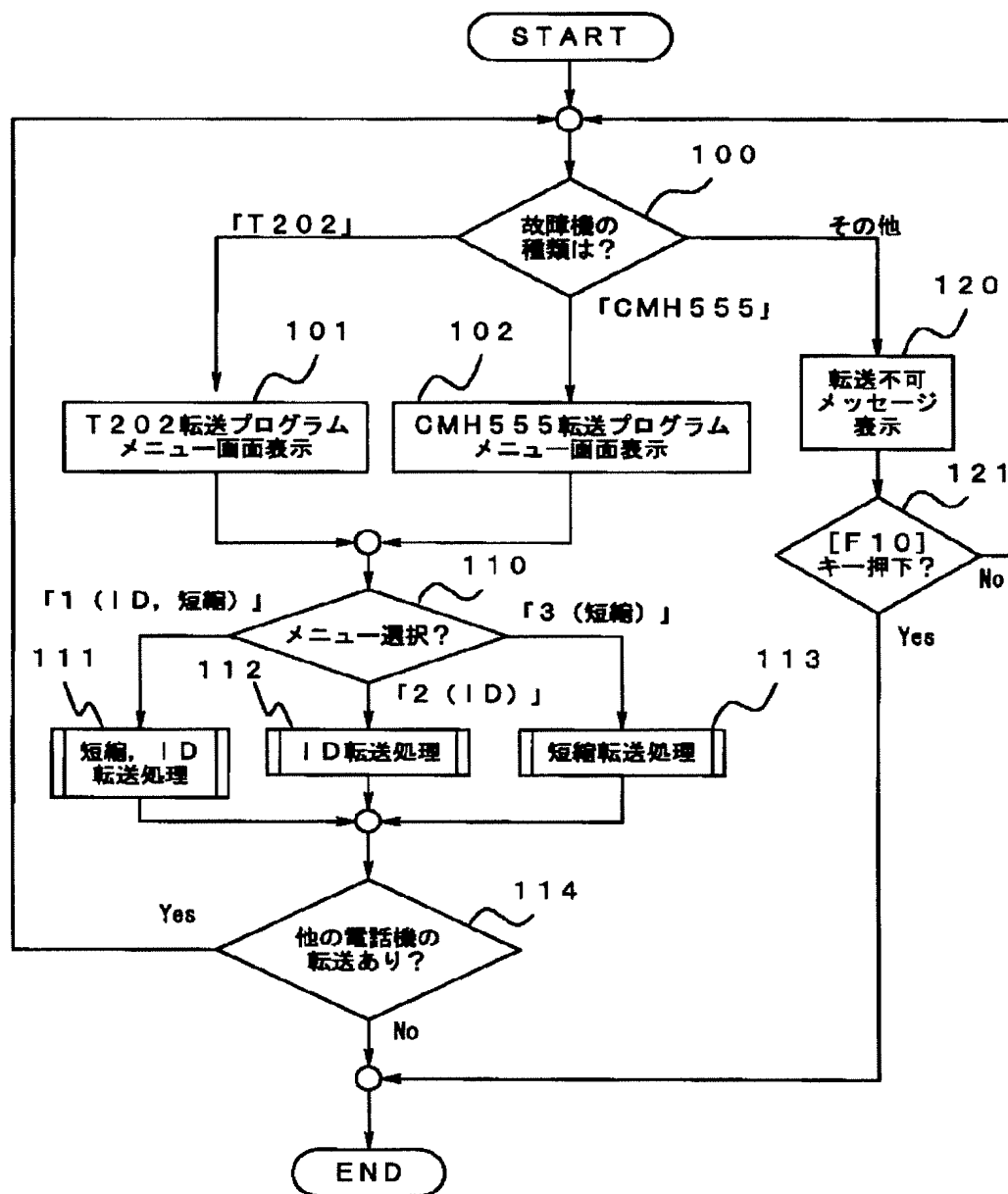
【図3】



【図1】



【図2】



【図4】

